

Library News



京教図書館 News

2008

11

私のすすめるこの1冊…………… 石川 誠（美術科 教授）

中村雄二郎 著 『共通感覚論』

「第六感」が働く一五感では説明できない何かの働きを描写する際にそうした言い回しをする。では、その五感は何か。私たちは、視・聴・味・嗅・触覚あたりを挙げ、眼や耳などは、それぞれ独立して外界に向けられた感覚器官であると考えがちである。しかし、例えば美しく盛り付けられた料理を「わあ、おいしそう」と先に眼で味わい、通りすがりの店先から漂う鰻を焼く匂いに思わず食欲をそそられることから、五感が完全に独立して存在しないことも了解できる。実は、こうした諸感覚にわたって共通かつ統合的に働く感覚を「共通感覚」（コモン・センス）とする考えは、古代ギリシから存在していた。それを踏まえ、中村雄二郎は本書で、諸々の感覚が＜体性感覚＞を軸に統合していることを、視覚、言語、時間・場所などの問題から多面的に論証していく。そして、その五感を貫き統合する根源的な感覚が「共通感覚」であると、重ねてその重要性を説いている。

興味深いのは、歴史的に五感のなかでも視・聴・触覚のどれかが中心になって統合されてきたが、その過程で五感の組み換えが起きていることである。中世ヨーロッパ（聖堂のなか）では聴覚優位に、ルネサンス期以降は視覚優位に（この時期に幾何学的遠近法が完成）、そして近代文明は、触覚と切り離された視覚の独走へと変貌している（I 共通感覚の再発見）。これを受けて、エッシャーやマグリットの作品を引き合いに、視覚は絶対か、と疑問を提示する（II 視覚の神話をこえて）。この過程で、脳科学（いま流行であるが）の視点から手と脳の相関的な進化・発達に言及し、ものを製作する能力と言語能力が、手と脳の密接な結びつきのうちに現れることを説く。当然、そこに触覚がかかわってくるが、これが＜体性感覚＞に連なっている。

アリストテレス、カント…メルロ＝ポンティと哲学者オンパレードに壁を感じるかもしれないが、ひるまない（気にしない？）でほしい。そのなかで、興味あるところから読み進めてもよい。ここには、幼児期になぜ泥んこ遊びが必要か、図画工作における造形遊びの意味は、といった問題への回答や国語・音楽・美術・体育などの教科原理に直接かかわる概念が、また、理科・数学などの発想を支え育てる土壌が見出せる。ちなみに、アイスナーは、子ども時代に出会う表象形式はできるだけ広げておく必要があると説く（E. W.アイスナー（中瀬ほか訳）『教育課程と教育評価』建帛社、1990）が、これも諸感覚の統合という点から了解できよう。紙面の都合で書けないが、生きられる時間の知覚としての＜共通感覚＞に関するM. エンデ『モモ』への言及も面白い。一読を。〈次ページに続く〉

『共通感覚論』 著者：中村雄二郎 発行所：岩波書店 出版年：1979年5月
岩波現代選書 南館1F 121.7/N37
岩波現代文庫より 2000年1月発行 北館2F 100/Z4/G1

■ 図書館からのニュース

1. 論文検索・収集法講座のご案内

雑誌論文の検索から入手方法までを、パソコンを用いてデータベース CiNii を中心に実習形式で説明します。11月の開催予定日時は下記のとおりです。

下記の日時に図書館カウンター前にお越しください。予約は不要です。

ご参加をお待ちしています。

日時	11月7日(金) 13:30-14:00	11月13日(木) 16:30-17:00
	11月19日(水) 11:00-11:30	11月25日(火) 15:00-15:30

上記日程以外での参加を希望される方は、カウンターまでご相談ください。

2. 除却図書展示・譲渡のお知らせ

図書館では、館内の狭隘化のため書庫内の重複等図書の除却をいたしました。図書館では、不用としたものですが、十分使用に耐えうるものも存在しております。有効活用を図るため、本学教職員・学生に公開し、希望者に譲渡をいたします。お忙しい時期ではございますが、ぜひご来館の上、活用して頂くようよろしくお願い致します。

1. 日時：11月4日(火)～11日(火) *日曜・休館日を除く開館時間中
2. 場所：附属図書館1階カウンター前

3. 教科書展開催について

開学120周年記念行事の一環として平成8年度に開催された教科書展は、その後も毎年開かれ、今年で13回目を迎えました。初等教育の各教科の展示が一巡(国語、社会、理科、算数、図画・工作と書写、音楽、修身、体育と家庭)したのち、知的障害教育用教科書を取り上げ、平成17年度(第10回)からは中等教育(戦前は旧制中学校と高等女学校、戦後は新制中学校と高等学校が含まれます)について、国語、英語、社会の教科書展を開催してきました。本年度は、数学編の教科書を展示いたします。藤陵祭期間中にも開催していますので、学内の学生や大学院生及び教職員だけではなく、新旧の卒業生、受験生、地域の方々にも是非図書館にお立ち寄り頂きたいと願っております。

日時：11月6日(木)～22日(土) 10:00～16:00
場所：附属図書館1階ロビー
教科書展URL：<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/kyokasho2008.htm>

■ 論のくちび理のむすび・・・榊原 禎宏(教育学科 教授)

「学校組織構造のメタファー」

榊原 禎宏

京都教育大学紀要 No.113 : pp.101-114

この論文は、二つの点で特徴的です。その一つは、学校組織構造をめぐる従来の議論が、上と下、縦と横という隠喩のモデルに依拠しており、「上意下達」「同僚性の阻害」といった素朴なイメージから抜け出せないために、職務、職位、スタッフの関係を互いに問うように議論が進まなかったことを明らかにした点。もう一つは、職務の分割が困難で、職務を取り巻く環境の不確実性が高い学校においては、業務でなくスタッフこそが動くべき変数であること、だからこそ、学校組織構造をより喩えうるものとして「なべぶた」や「ピラミッド」ではなく、「中心一周辺型」モデルを挙げ、上下ではなく円環のネットワークとして学校の仕事の分割と集約、個業と協働を捉えることができるのではと仮提示した点です。

みなさんが教員として働く職場、学校はどのような組織だとイメージしていますか。子どもたちへの「指導」や「働きかけ」といったものは目に見えにくく、その効果を確認することも簡単にはできません。また、「基礎・基本を徹底しよう」と同僚と話し合っても、その指すところは教員によって相当の幅があります。

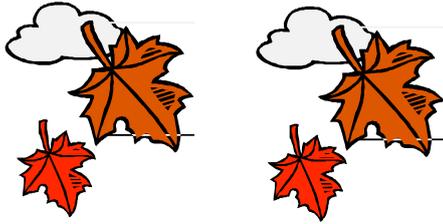
組織目標を掲げ、その実現をめざす学校ですが、教育実践は曖昧で、スタッフ間の分業や連携もなかなか客観的には進めにくいというユニークさ。この難しさはどこから来るのか、複数の人間によって取り組まれる事業だからこそその意義をいかに高めることができるか、こうした観点から学校経営研究は行われています。

学校を捉えようとするとき、実態と同じように大切なのは、それがどのように語られているかというメタ的な視点です。だからこそ、どのような喩えでこれまで学校組織が理解されようとしてきたのかを整理すること、また職務とスタッフとの対応関係を学校の特性にふさわしいものに変えていくための着眼を得ること、本論文は、このような課題設定にもとづき試みられたものです。

全文は近日図書館HP「京都教育大学紀要」で、ご覧いただけます。



■ 図書館開館スケジュール



(通 常)

開館時間： 9:00

閉館時間： 21:00

一部期間は 17:00 に閉館します

下記カレンダー「～17:00」と記載

11

日	SUN	月	MON	火	TUE	水	WED	木	THU	金	FRI	土	SAT
												1	
													～17:00
2		3	祝	4		5	整	6	7	8			
休館		休館				休館							～17:00
9		10		11		12		13	14	15			
休館													～17:00
16		17		18		19		20	21	22			
休館													～17:00
23	祝	24	振	25		26		27	28	29			
休館	休館												～17:00
30													
休館													

12

日	SUN	月	MON	火	TUE	水	WED	木	THU	金	FRI	土	SAT
		1	2	3	4	5	6						
													休館
7		8	9	10	整	11	12	13					
休館				休館									～17:00
14		15	16	17	18	19	20						
休館													～17:00
21		22	23	24	25	26	27						
休館			休館	～17:00	～17:00	～12:00	休館						
28		29	30	31									
休館	休館	休館	休館										

11月3日(月)は祝日のため休館します。

11月5日(水)は館内整理のため休館します。

11月9日(日)は「教科書展」のみ開館します。

11月22日(土)はオープンキャンパスですが開館します。

11月24日(月)は振替休日のため休館します。

12月6日(土)は入試のため休館します。

12月10日(水)は館内整理のため休館します。

12月23日(火)は祝日のため休館します。

12月24日(水)から26日(金)まで短縮開館します。

12月27日(土)から翌年1月5日(月)まで年末年始のため休館します。

京教図書館 News No. 98 2008年11月号

編集発行：京都教育大学附属図書館

発行日：平成20年11月4日

内容に関するお問い合わせ先：

附属図書館(内線8176)



京都教育大学